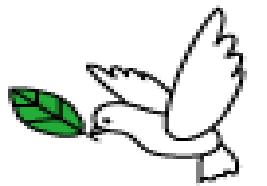


やよい図書館



いつもやよい図書館をご利用いただきありがとうございます。

紫陽花の花がとってもきれいですね。はっぱにカタツムリも見つけました！お気に入りの傘を持って出かけてみましょう。はっきりしないお天気だけど、それなりに楽しみが見つけられる毎日を過ごしたいですね。もうすぐ待ちに待った夏休みです。プールに海に山、花火にお祭り、きもだめし。そして本を読むにもよい季節です。やよい図書館でもいろいろな楽しい企画をお待ちしています。ぜひ好きな本をたくさん読んでくださいね。楽しい夏をみんなで満喫しましょう！

今年もじゅうたんコーナーの前に七夕飾りを用意しています。みなさまで短冊にお願いごとを書いて飾ってみましょう。願いがかなうといいですね。

俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください！！

館長の一冊

『がんばっぺし！ペしペし！陸前高田市長が綴る“復興を支える仲間”との732日』

陸前高田市長 戸羽 太／著 大和出版

震災から2年が過ぎ、被災地の様子が報道されることも少なくなっていました。著者の戸羽さんは1カ月前に市長に初当選したばかりで希望に燃えていた時に震災が起き、市長ご自身も震災で家を失い最愛の奥様を亡くされました。当時は小学生だった2人の息子さんにもなかなか会えない激務が続く中で、次々と救援の申出を受け、次第に仲間が増えています。問題は今も山積みですが、常に前を向いて復興を取り組んでいく様子が描かれています。私たちにできることは、被災地の今を知り、支援を続けていくことではないでしょうか。

俺の一冊（憲）

『俊輔の言葉』 石倉勇／著 講談社

皆さんは日々生きてく中で、座右の銘や背中を押されている言葉がありますか？「足も遅いし、身体も細い。それでも、日本代表になれた。誰でも素質を持っている。」これは、サッカー日本代表の中村俊輔選手がサッカーアカデミーの新入生に宛てたメッセージです。日本代表で8年間10番（エース）を背負い、天才の名を欲しいままに現在も圧倒的な存在感で活躍しています。でも実は、クラブでも日本代表でも、チーム練習の後、最後まで居残りボールを蹴り続けます。脳内に理想郷が存在し、目標に到達するためのイメージングを欠かしません。たゆまぬ努力の裏付けによって豊かな創造性、テクニックが生まれているのです。“努力の天才”の言葉、必読です。

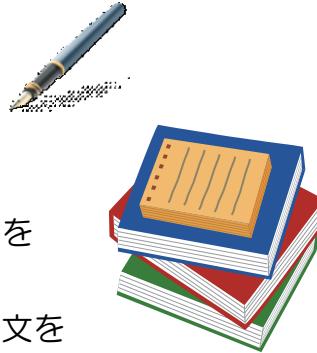
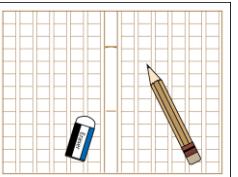
私の一冊（坂）

『<新釈>走れメロス他四篇』 森見登美彦／著 祥伝社

題名からも分かる通りこれは現代版「走れメロス」です。京都を舞台に阿保学生の芽野史郎が友人芹名雄一のために走ります…。と思いきや、ありふれた友情なんてつまらない！と、芽野は逃走するのです。はたして芽野と芹名の友情は証明されるのでしょうか。それは読んでからのお楽しみです。

他にも「山月記」、「藪の中」など文学の名作といわれる作品が森見氏によって新たに書き直されています。原作を知っている人にも知らない人にも読んでもらいたい一冊です。

読書の窓 文学忌



「ブンガクキって何だろう？」と思うかたも多いことでしょう。

文学忌とは作家の命日にその雅号やペンネーム、代表作にちなむものを記念し、文学的な業績を偲ぶ日のことをいいます。

7月は日本文壇が誇る大物作家の文学忌が多い月でもあります。名文を遺した作家たちを偲びつつ、この機会にぜひ手にとってみてください。

7/9 鳴外忌 森鷗外

『雁・カズイスチカ 読んでおきたい

日本の名作 森鷗外 2』

森鷗外/著 教育出版



森鷗外は作家だけでなく、陸軍の軍医としても活躍したマルチな才能の持ち主でした。

「僕」の隣に住む男は時間ピッタリに行動する周りからの信頼の篤い男だ。その彼に想いを寄せる女性。他の男に囲われ、窓の中から彼を見つめる彼女に一体何があったのか？（『雁』）

7/28 石榴忌 江戸川乱歩

『日本幻想文学集成 14 江戸川乱歩』

江戸川乱歩/著 国書刊行会



石榴忌（ザクロキ）とは1934年「中央公論」に発表された推理小説『石榴』からきています。皆さまおなじみの江戸川乱歩ですが、優れた短編を数多く残しています。

電車で乗り合せた奇妙な男が持っていたものとは？（『押絵と旅する男』）乱歩お得意の少しずつする話が満載のお得な短編集です。

7/24 河童忌 芥川龍之介

『ちくま日本文学全集 001 芥川龍之介』

芥川龍之介／著 筑摩書房



芥川の命日は河童忌（カッパキ）と呼ばれます。芥川が生前好んで河童の絵を描いたこと、『河童』が晩年の代表作であることからきています。

主人公が迷い込んだ河童の世界は人間世界とは全てが逆の不思議な世界。これを読んだら河童を探しに行きたくなるかもしれません。

7/30 谷崎忌 谷崎潤一郎

『刺青・秘密』

谷崎潤一郎/著 新潮社



中学では飛び級し、常に学年トップであった神童、谷崎の処女作が『刺青』です。

刺青の彫り師はある日理想の女性を見つけ、彼女の背中に女郎蜘蛛を彫りつけます。文庫本にしてわずか10ページの作品ですが、作品全体に漂う美しく妖しい雰囲気が、強烈な印象を残す作品です。

読書の小窓 『恋と軍艦』 西炯子作 講談社（なかよし）

新コーナー“読書の小窓”が始まりました。このコーナーでは、図書館には置いていないけれど、これおすすめ！というマンガや映画などを紹介していきたいと思います。

さて、今回紹介するのは『恋と軍艦』。現在、雑誌「なかよし」に連載されています。少女まんが？恋？どうせ、イケメンとかわいい女の子がくっつく話なんでしょう？って思って読み始めると全然違う！主人公は東京から田舎へ引っ越してきた中学生、でも恋する相手は41歳の町長。もちろん相手にはされないし、町長はよくわからない男と同居してる・・・。

このマンガに出てくる大人たちは、子どもたちを常に導いてはくれません。その為、子どもは自分たちで考えて行動する。もちろん失敗します。大人は失敗するとわかっていると止めたくなりますが、それでも見守って、子どもが行動して傷つきながら成長していくことは必要ですよね。（大塚）